



つながろう

CO-OP アクション情報

2012年4月25日

第16号

「築く・伝える、未来へ」

子どもたちが、放射性物質の測定を体験



© 山田省蔵

放射性物質の測定過程を見学する子どもたち。写真は、食べ物をミキサーにかけている様子。

4月3日。コープふくしま組合員の親子が日本生協連商品検査センター（埼玉県蕨市）にやって来ました。食品に含まれる放射性物質の測定を見学・体験するためです。子どもたちは、さまざまな検査機械に触れたり、実際の検査を行なう職員の手元をじっと見たりと、興味津々の様子でした。今回、日本生協連商品検査センターを訪問した親子は、昨年の11月から日本生協連が行なった「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」に協力していただいた方々で、自分たちの提供した食事がどのように検査されたかを確認しました。

●放射性物質摂取量を237家庭で測定

日本生協連の「家庭の食事からの放射性物質摂取量調査」は、2011年11月から2012年4月にかけて行なわれました。各家庭の2日分の食事（6食分と間食）を1サンプルとしてすべて混合し、その中に含まれている放射性物質を測定したもので、全国の237家庭（18都県、その内福島県内が96家庭）に協力いただきました。

結果は、検出限界（1Bq/kg）以上の放射性セシウムが検出されたのは、237家庭中5%でした。仮に、検出された食事を1年間毎日食べた場合、食事からの内部被ばく線量は、0.019 mSv～0.136 mSvと推定されます。これは、国が設定した4月1日以降の「年間許容線量1mSv」の1.9%～13.6%でした。

日本生協連では、2012年度も全国の生協・組合員と情報や課題を共有していきます。



© 山田省蔵

ほうれん草の放射性物質測定準備の様子。